

心理学部 3つのポリシー

ディプロマ・ポリシー

心理学部（以下、本学部という）は、心理学及び人間・社会に関する専門的知識・技能を幅広く身につけ、地域社会における犯罪・非行を始めとする諸問題の解決、地域住民及び子どもたちの精神的健康の維持と福祉の増進、地域の企業活動に貢献できる人材を育成することを目的としています。

具体的には、大学全体のディプロマ・ポリシーに掲げる「駿大社会人基礎力」を身につけることのほか、下記の専門的知識・技能及びその活用力を身につけることを目標とします。

1.心理学の専門知識・技能の修得

心理学に関する基礎及び応用に関する知識・技能を幅広く、偏りなく身につけることができ、さらに、自ら人間や社会に関心を持って、必要な知識や情報を収集することができます。

2.心理学的な理解力・分析力の修得

実験・調査・観察・面接といった心理学的な手法を用いて、人間行動及び社会の諸現象についての情報を収集し、それを統計的な方法を用いて科学的に分析することができます。

3.心理学関連領域の専門知識の修得

人間行動に関連する心理学以外の領域にも関心を持ち、それら関連領域の専門知識を幅広く修得し、人間及び社会について多面的に理解することができます。

4.現実社会での諸問題に能動的に関わる能力と姿勢の修得

精神的健康に関する問題、犯罪・非行を始めとした社会病理に関する問題、親子関係などを含む子どもの発達に関する問題などの社会的問題に関心を持って取り組み、自ら課題を発見し、その解明・解決を目指して、専門的知識・技能を活用することができます。

カリキュラム・ポリシー

本学部では、本学カリキュラム・ポリシーに基づき、心理学専門教育の科目を体系的に配置します。同時に、公認心理師の受験要件を満たすことのできるカリキュラム編成とします。

講義科目は、その内容を考慮して適切な学年に配置します。また、1・2年次にプレゼミナール、3・4年次にゼミナールを開講し、すべての学生が4年間を通じて少人数のゼミに所属します。さらに、心理学基礎実験・心理検査演習・面接演習などのアクティブ・ラーニング等、主体的関与と相互交流を促進する手法を取り入れた科目を多く開設します。

また、科目ナンバリングやカリキュラムマップによって、科目の難易度、科目間の関連、基礎から専門への展開が理解できます。これにより、学生はカリキュラム体系を意識しながら学習を進めることができます。

1.教育内容

(1)導入教育

1 年次には導入教育を重視し、必修科目「人間研究の視点」では、人間を研究する際の基本的視点や姿勢について、「プレゼミナール」では、大学における「学び」の姿勢及び学び方について学びます。なお、「プレゼミナール」では、できるだけ個別の事情等を勘案しながら授業を実施していきます。

(2)語学教育

グローバル社会の共通言語である英語を必修とし、1・2 年次において集中的に学習します。習熟度に基づくクラス編成を行い、確実な英語力の修得を図ります。また、英語以外の外国語は、選択科目として履修することができます。

(3)心理学の研究方法に関する教育

心理学研究には、データ分析や統計分析が必要となるため、1 年次には、コンピュータの使用法を修得するための「コンピュータ・リテラシー I・II」を、能力別クラスを編成して開設しています。2 年次の春学期には、「心理学統計法 I」においてデータ分析と統計学の基礎的な知識と技能を習得し、秋学期には、「心理学統計法 II」において高度な統計分析について学びます。さらに、2 年次以降には心理学の研究方法に関する授業が開設されており、実験や調査に関連する知識を自ら体験しながら学びます。

(4)心理学に関する基礎教育

心理学全般を広く把握することのできる概説科目と、専門科目のうちでも特に基本的と考えられる科目については、1 年次から履修可能とし、これにより心理学の様々なトピックスへの興味や心理学全体への関心を深めるとともに、自己の関心や興味がどの領域にあるかを意識することができます。これにより、2 年次以降の専門科目選択、3 年次のコース選択・ゼミ選択をより適切なものとすることができます。

(5)心理学に関する専門教育

2 年次以降徐々に専門科目を多く履修できるようにし、3 年次からは、自らの興味・関心に合致した学習を展開できるように、「臨床の心理コース」、「犯罪の心理コース」、「子どもの心理コース」の 3 コースを設けています。これにより、問題意識や興味関心に合致したコースを選択し、専門的な学習を深めることができます。

(6)関連領域教育

(1)～(5)とは別に、社会学、人類学、宗教学、精神医学などの心理学に関連の深い分野について幅広く学べるように「心理学関連科目」を設けています。これにより、人間に関する幅広い知識を修得し、人間行動や社会の諸問題を多面的に捉える姿勢と力を身につけることができます。

(7)キャリア教育

キャリア教育を 1 年次より開始し、心理学教育と並行して自立した社会人となるための教育を行います。これにより、心理学を実社会で活かしていくための方向性を見出すことができます。

(8)卒業研究

4年間の学習の集大成として、それぞれの問題意識や興味関心に基づいて「卒業研究」を行います。これについては、「ゼミナールⅠ～Ⅳ」の中で継続的に指導が行われ、4年次の秋学期に研究結果を提出します。

2.教育方法

(1)少人数によるゼミナール形式による教育

1・2年次はプレゼミナールⅠ～Ⅳ、3・4年次はゼミナールⅠ～Ⅳにおいて、ひとりひとりの個性、資質、興味関心等に配慮し、きめ細かい教育を行います。学生は、他の学生や教員との関わりの中で、自らの主体性や行動力・実行力を身につけ、課題発見能力や問題解決能力を向上させます。

(2)体験型授業科目

心理学部では、コンピュータ・リテラシー、心理学統計法、文献購読、心理検査や心理療法に関する演習、「臨床の心理」・「犯罪の心理」・「子どもの心理」の各コースにおける心理専門演習など、多くの体験型科目を設置し、基礎実験、統計法、コンピュータ・スキル、心理検査法、面接法など多くの演習形式の授業を設置し、アクティブ・ラーニングを実施します。

(3)双方向型・相互交流型授業

体験型の授業科目のみならず、講義科目においても、バズセッション、討議、小テスト、リアクションペーパーなどを用いて、可能な限り双方向型授業を取り入れ、学生の主体的関わりを促進します。

3.評価

本学部では、本学ディプロマ・ポリシーにおいて掲げられている「駿大社会人基礎力」と専門的知識・技能の総合的な活用力の修得状況を、①駿大社会人基礎力の到達度の確認、②各科目のシラバスに定める成績評価、③卒業研究の成果把握、によって総合的に行います。個々の科目の成績評価については、学習の到達目標を明示し、多様な評価項目を異なった比重で評価します。評価に際しては、獲得した知識の質と量だけでなく、様々なスキルを査定して、最終の成績評価に活用します。

また、学生には、成績評価の最終的結果をフィードバックするだけでなく、授業の過程においても、レポート等の添削結果の返却、コメントペーパーの配布、模範解答の配付などの方法により、達成度や評価に関して、適宜フィードバックしていきます。

卒業研究については、主査及び副査による総合評価とし、複数教員が統一されたチェック・リストに基づいて評価することで、公正性を担保します。

アドミッション・ポリシー

1.求める学生像

本学部では、人間行動・心理のみならず、現実社会での諸問題、特に精神的健康に関する問題、犯罪・非行といった社会病理に関する問題、親子関係や子どもの発達に関する問題に

関心を持ち、これに能動的に関わる意思を持つ人材を求めています。高等学校での学びをさらに深め、より広い知識を身につけたいという意欲と、学んだ知識・技能を社会で活かそうという意思を持つ者を歓迎します。

2.高等学校において学んできてほしいこと、身につけてきてほしいこと

本学アドミッション・ポリシーと同じですが、さらに具体的な事項について以下に記載します。

- (1)高等学校における文系・理系の科目を幅広く履修し基礎学力を身につけていること。特に、人間の心理の説明及び理解のほとんどが言葉によりなされることから、国語の能力は重要です。また、心理学では、人間を取り巻く問題を理解するためにデータ分析を重視することから、数学も重要な科目です。
- (2)高等学校における国語総合(現代文)と英語の修得により、文章や言葉の理解力、表現力に関する、基礎的な力を身につけていること。特に、これらの力を用いて、対人的コミュニケーションを積極的に行う姿勢が求められます。
- (3)集団生活を通してチームの一員として活動できる力を身につけていること。
- (4)社会や文化に関する問題について、知識や情報を基にして、それらを精神的健康や社会の福祉の増進との関連の中で考えようとする姿勢を身につけていること。

以上のような入学者を選抜するために、学力試験、面接試験、書類審査、模擬授業及び課題審査等を取り入れた多様な入試を実施します。